雅氏源初東旅

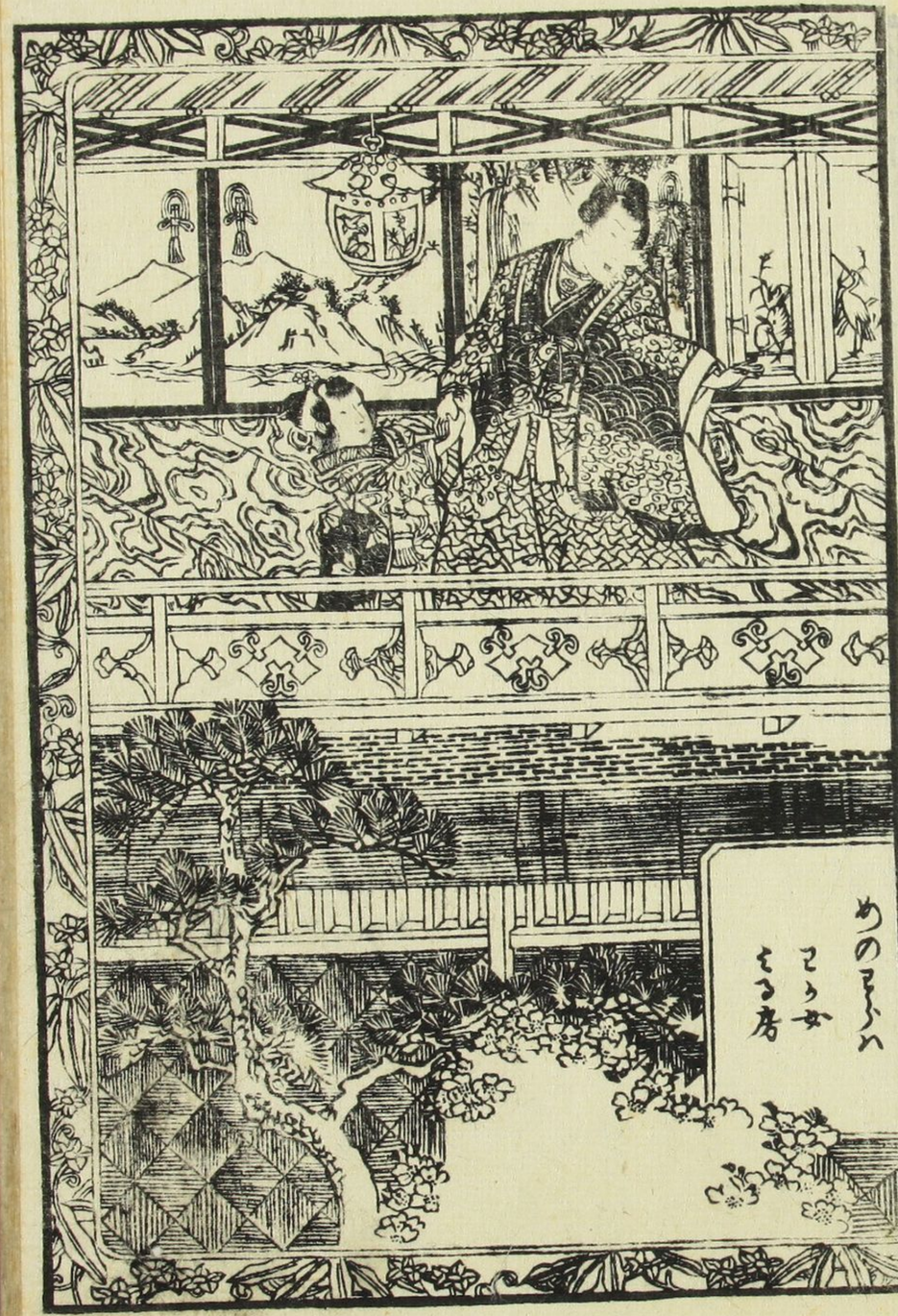
三編

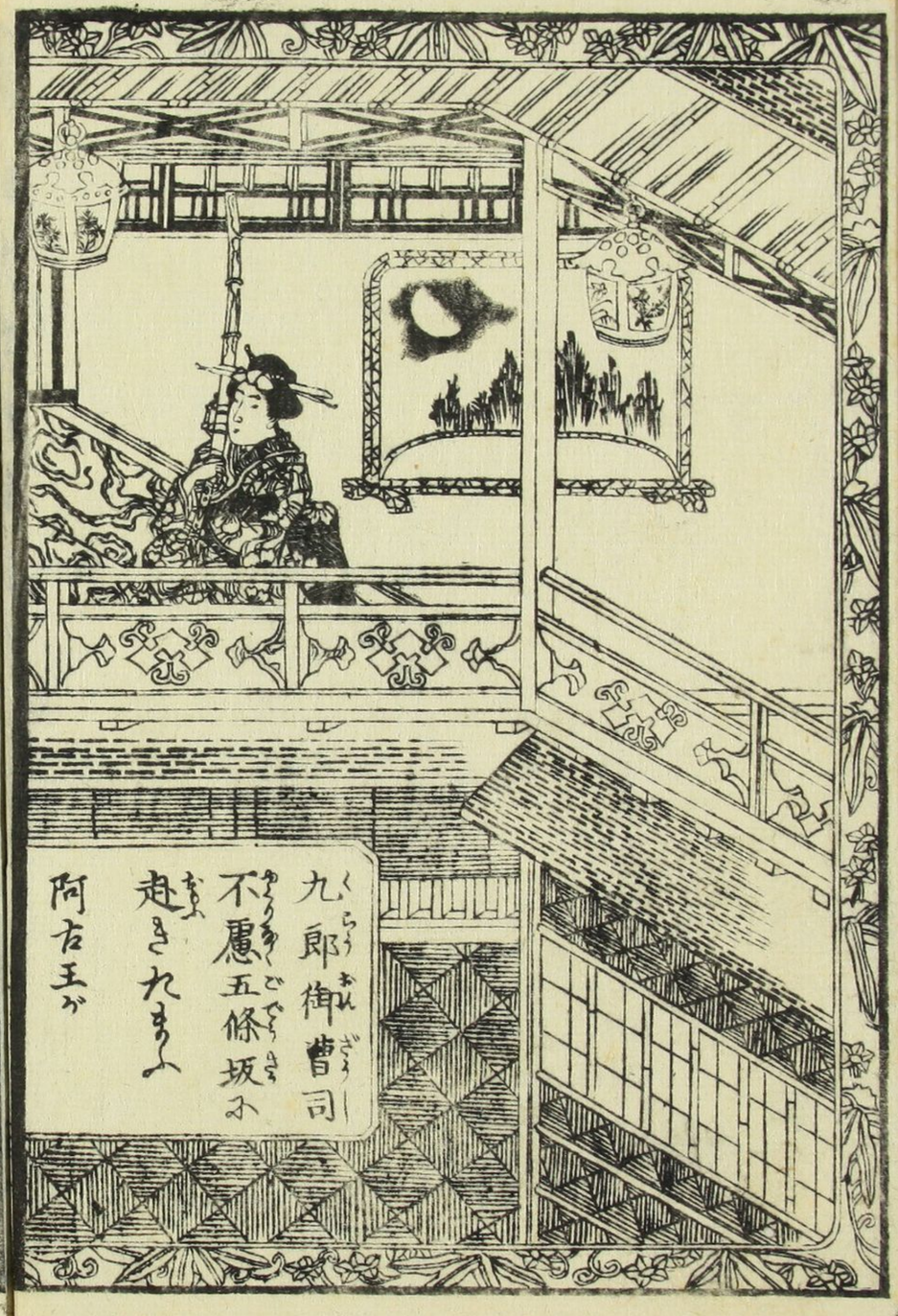
笠亭仙果作

一勇齋國芳画

中昔都より吾嬬の國へ赴くふ東海道と稱へ彼今様ふも謠ひ如く海道下を
へ波高くと第一桑名七里の渡海恐怖しくりのおく今所謂上街道近江路美
濃國を經て尾張の萱津粟手を過厚田ふ出て伊勢を通らもかゆうも吏へ鄙も
書籍讀人の知らぬいなふ。繪造紙好の幼童ど此稿本者てはいまこの義經ど奥州下り逢
阪越て篠原守山武佐越智川などと書ようへ由利太郎の生國の出羽を出双屋と呼
更て。石部泊の化粧お半が櫛笥の鏡宿坂い照々小室節與市も伊達の與作ふ
て。關ヶ原より關の小万とかく翻案なバ新奇かくん板元さへ東海堂こうさぐ
岐蘇路い本意なげなり改造せと注文なもど原来義經記の再演義まさら
さるのでい變られずこれでも猶東海道と其言譯を記して序とも扨此編ハ辛巳て
鞍馬の一齣作果鏡宿まで到るとしぶ大脚色の種時故三番叟程真黒みるいて
力行かしもなく事六ケしくて住增なるまじく前程千秋樂の蝦夷渡ハ其まの
万里路程ふい山川野原倦々なる所い必多ふものと今ハ此もおとこうり例ま
も拙筆煩脚杖より圖繪をたのみて先三篇も脱稿ぬ

竹立　亭仙果

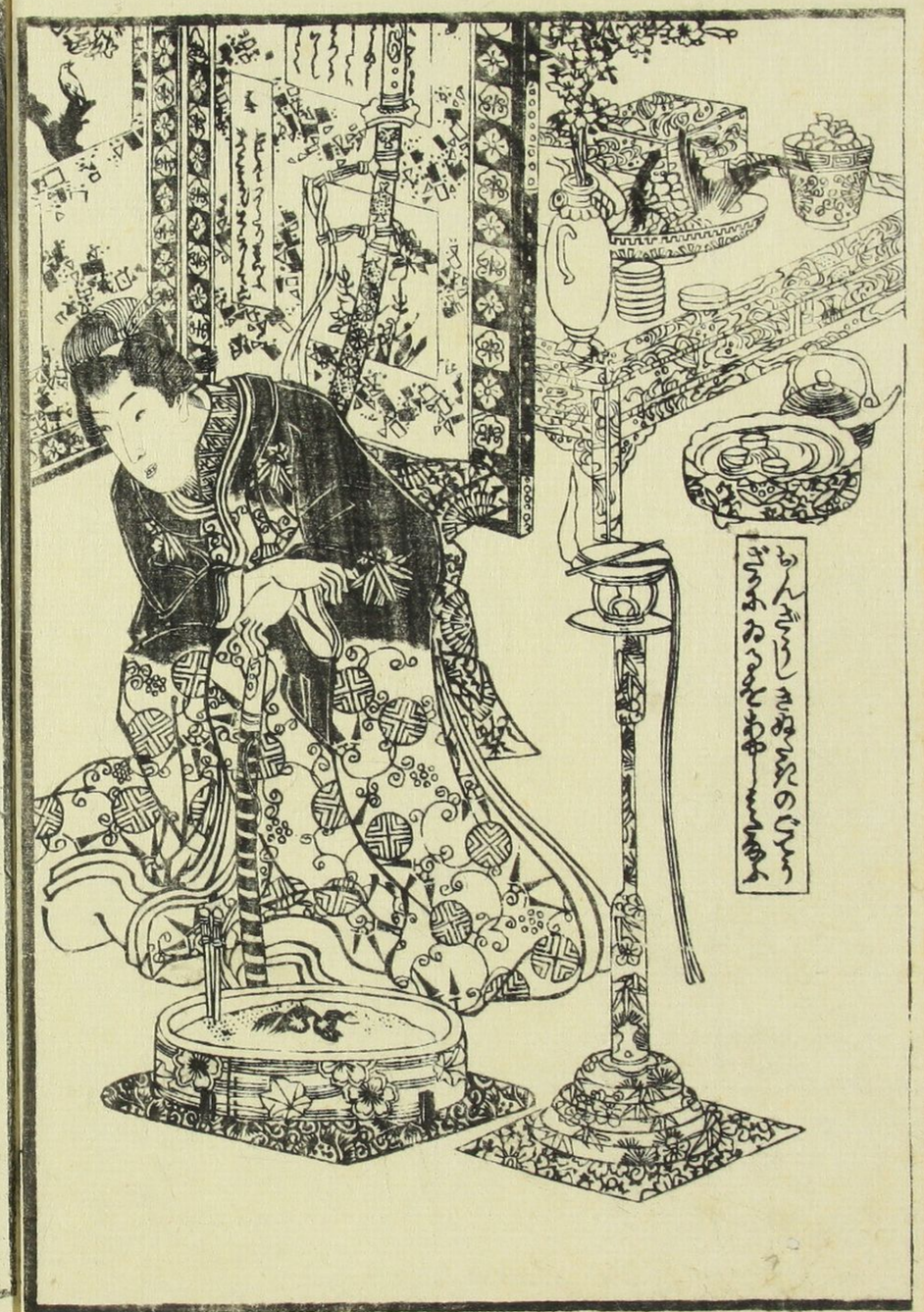

めのまへ
こゝかも
ちる庵


九郎御曹司
不慮五條坂ゑ
赴き給へ
阿古王が

推源氏東國初旅三編

向上いたるみちまち磐とあるをたゞとそれ万尋あり。直下に碧潭のみどりのふち千仞と。
高くそゝり底ふかき。山まつ巨水まこ水。人のゆきてもしの跡まぼろしなる道路ちゞつの眺望。
松嵐の花のあと訪て雪をぬり雨とふる。哀猿ふ叫んで腸を断とかゝ。びきどもの
多やと山み繁こる清曹子も拘さびしゝげみくて人はらくるゞあおいあゝ。山いたの山ふ
なのふぢ水も面者のくまどうたかさ流しるうゝし絶の稜厳ゆ水うるまべ「我ハ
男ふるりたろう七宝の数よりう鞍馬わそゞもう。真の山も一茅屋の思面のやうた光
えしゝ。今ゝ鞍るを出るみ及べ。平泉常の山れの面もおそ巨げみおりたこへわゝこへ
いづくゝるゝん。最お怪き魂ゆ坂ら出てかあく。二打三打あひらゝ浦郡ゝとせゝろ
ども敵もくゝせるのくまくゝ生ゞ我ひくゝ我ひ出関ひ浦夜ゆ乃をゝべせまゝた山孫
ふ迫ひ迫ゆ生ゞ見面ゝろくゝ互ふ良ゝ自ゝたゝいゝゝたものをゝら所ふ熟ゝる男ゝさゝろよ
いめ夜中ひあゝ中ゝるる彼家姿のゆさ女かのゝ魂ゆひきかゝゝさゝひふゝさゝゝゝり
三人ゝゝゝゝ彩をゝん含せゝる折しゝも山ゝ彩ゝ如法闇夜のゝくゝま山ゝ狗鮮ゝ永両
ゝゝゝおゝひゝゝゝちゝひゝく。ゝゝと飛ゝ秀ゝを玉隠ゝゝゝゝゝゝ髪ゝゝゝゝゝゝゝゝ。
心惑ゝ暫ゝ眼を浅往を念せゝゝゝゝふ眼を開ゝゝ鞍馬ゝゝゝゝゝゝゝゝ産業の結
構ゝゝ隈ゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝ

まみえぬひめ
りのわんじゃ
あとは
おんさらしを
りゑ〳〵うい
わゐのごく
せんとうや
まつの


ちんざらしきぬえぬのごと〳〵
ざうふおうとわや〳〵

「ちゞひ。承知でおーも強弓の武士の習ひ。あハ射んと戯れまゐらせるうとより。屋敷
一枚たまのけぬべく。阿古王殿をたゞりおまつらる。白張をおつさらり「扨もかゝるハ
さうれ中ぐ。ぜひうでもあうりしが田舎男の業よ入ゆへ。をかゝひのゞ軒夏くそをを
こちらハ弁つゝろれどとよりそひてまゐをそろとれゝひ「あるゝ武結もこのおゝ。が。
ゆとうさ面ゐと蒲茶の上。おーゆゝまゞてゝ。ゝうち敷「イヤまゞ誰ゝ寝てゐると新さ
ーのぞれみひつゝり「おこゝハ夜襲ゝ処ゝ。ゆの召ておゝーなるぞ。わゝこゝろ得ゝたさ
不審の新色。姫ゝこゝをゝゝをゝゝあーげふ。見おこゝてゝる国ふ波をもち。髪の毛
ゝをゝうゝうち敷て甚ゝつゝゝき月ごろゐハ。百俵とも万俵とも河ふいひもつくされ
ぞ。御曹司ハ恍惚と。ゝんとこれぬゝべ。この古王打ゐゝて「我君のおいのゝるゝ妾を
ゐんとゐゐゝゝゝせゝとても実ゐるゐい癖よ東ありげゐるいひまゐーゝうゝゝゝかゐて
ごぞんじゐゝゝゝゝゝゝゝれゝゝまゐゐ振君ゝゝゐおゝゝゝ。よく慰て第らせぬゝ。もう
私ハこゝゝゝゝゝゝ心ハ絶らぬ故て。おゝ忘ゐゝゝゝ兄弟ゐ。兄ふ對ゝゝる。ゝ義と夜襲つく
ゐひ敷ゝゝ御曹司心ゐハ夜襲の者るとゝゐゝゝで阿古王ふいひ「戯言ゝゝゝゝゝゝし
とおゐゐゝゝゝゝゝゝゝ

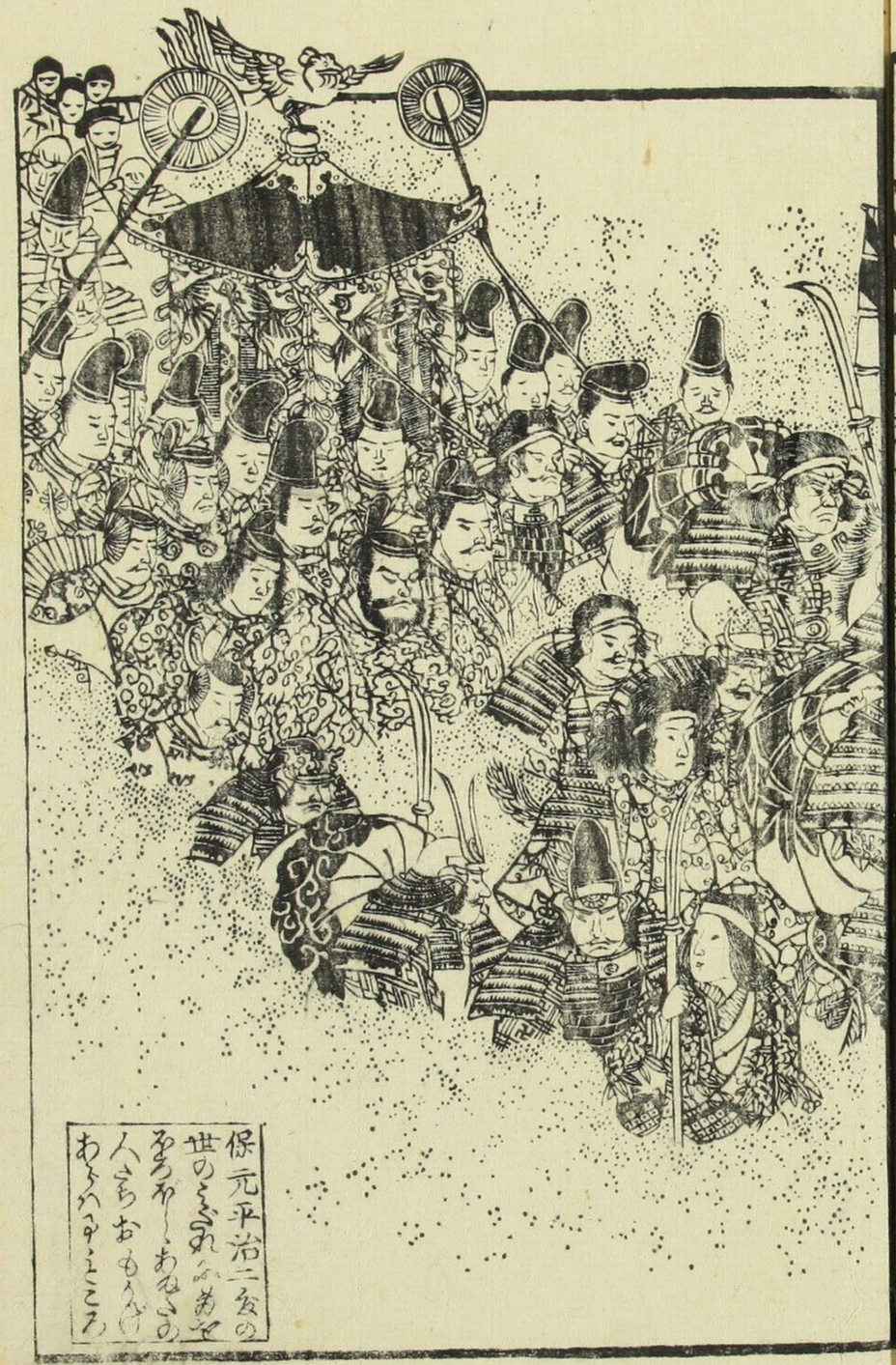
ちやとも

おんぎやうじ

持つも此五條（まもり）は職（しょく）として義（ぎ）のかぎりなる故（ゆえ）に義（ぎ）をもとゝ
なれば武（ぶ）は義（ぎ）をもとゝせん事（こと）の所（ところ）なり。業（ごう）通（つう）自在（じざい）の老（ろう）狐（こ）野干（やかん）我（わが）
しを妨（さまたげ）んとせん事（こと）の所（ところ）なり。いつる悪魔（あくま）も降伏（ごうぶく）すべき妙経（みょうきょう）頂（いただき）に載（のせ）て義（ぎ）
力（りき）の切味（きれあじ）試（こころみ）んとて、ちらつとぬいて、衣（ころも）の袖（そで）を掛（かけ）しかば、
わらわの袖（そで）をうて、分（わか）れたとぞいふなる。
まことにみて、敷（しき）ものをぬいて、衣（ころも）の袖（そで）をぬいて、立（たち）あがるとうるわどに花（はな）のそばにいたる
ほのぼのの白装束（しろしょうぞく）よりぬぎ、直衣（のうし）をかたぬぎ眼（まなこ）をとじ、異（こと）の形（かたち）の僧（そう）の姿（すがた）と
なりぬる。白（しろ）き羽（はね）の羽（はね）をとて、造（つくり）れる扇（おうぎ）、遠那（おんな）王（おう）とうたいつゝ、大膳（だいぜん）ふ敵
の前（まえ）、曹司（ぞうし）眼（まなこ）を睡（ねむ）てとろくとうたいつゝ、「分（わか）りのものをらんと存（ぞん）じ、兵法（ひょうほう）の師匠（しょう）と仰（あおぐ）
ぎ給（たまう）へ」とぞ。
扇（おうぎ）の張（はり）の板（いた）に、係（かけ）て、
「木（き）の
本（もと）にまきこみ、世（よ）の面目（めんもく）あり。
ひとと新（あら）たに、
「我（わが）
物（もの）とおもせ給（たまう）へ。
一心（いしん）凝（こり）てまろくる。
「我（わが）
ら、
「対面（たいめん）もせざりしに、
「時（とき）
「来（きた）りて、
「今（いま）
「我（わが）
を生（しょう）じてあるまの物（もの）
「後（ご）
「の
「ものを
「通（つう）力（りき）
「を
「
「
「

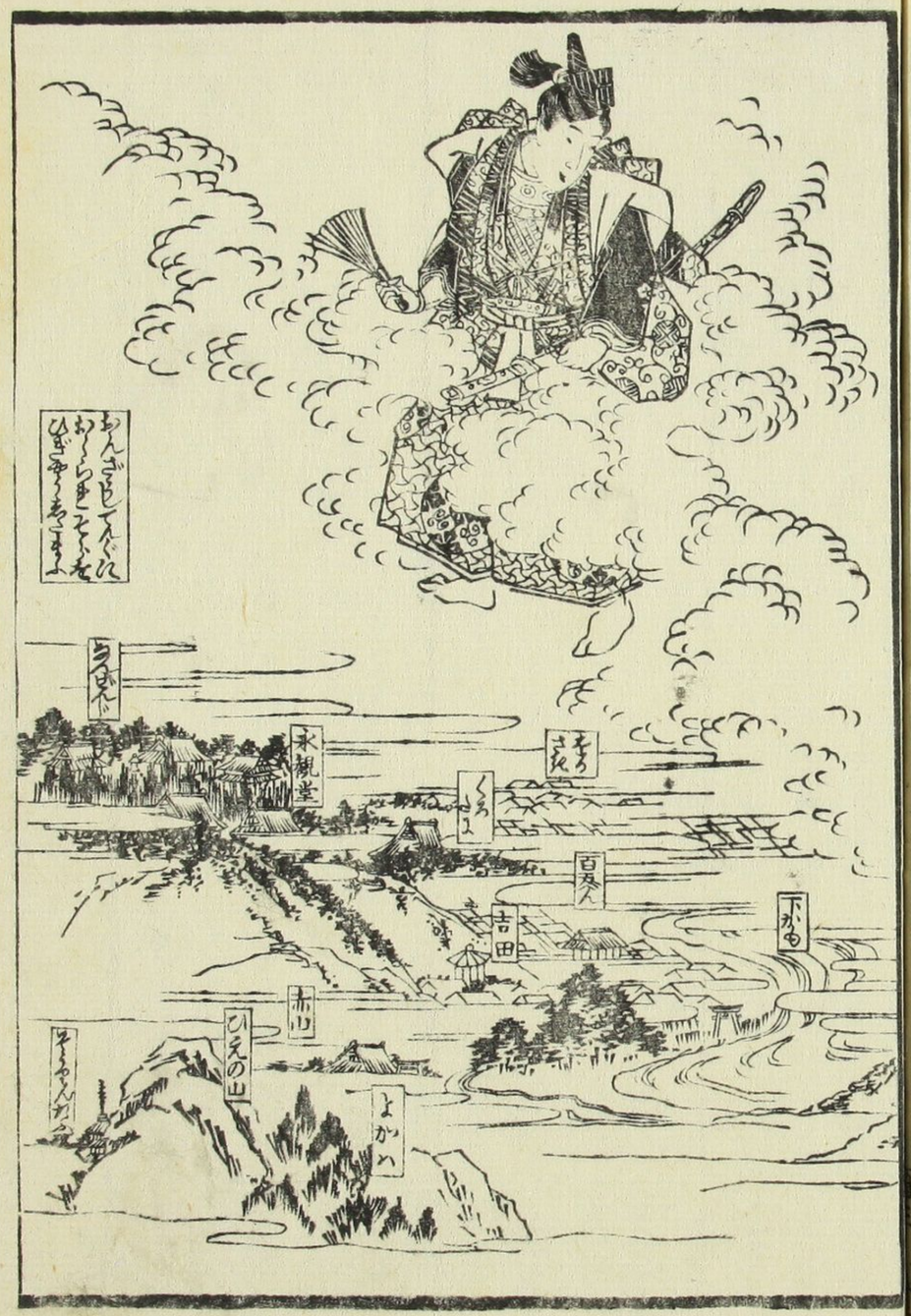
くまの
やく行者の
坊さのうく
をあらせ
むすめうの
のところ

やぎ
もカたち
すきを
えぶ
うくう
かゝ


保元平治二度の
世のさゝれ
ゐあそ
ぶるかゝあねさの
人をちおもんぐ
あらはすところ

如くふ男の如き暴力も法山の恩ある我の恩。公義を勇こそ[illegible]きこの此身を厲んと誓ふ[illegible]
[illegible]秀衡とそのとうり他人同胞とそも偽の[illegible]豆の偽[illegible]佐藤の外[illegible]
我をあ[illegible]こそ後[illegible]のよ[illegible]逆さ[illegible]
万の[illegible]
軍車[illegible]
彦山の[illegible]
よそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

平色白く。女めくのう進物長連弦葦毛の馬に跨り。白髪なる老人狩いのそぐ
もろるき判官源氏風聞軍る近くゆえ出るゆ。左大将殿おおい後巻石も苦し
げに配をぬぐ信光郎其外そ入上前下司平家をうらむるゆ風聞軍の所蔵をば
表の如くてみ名をこふ者ぬもいとまし。あらもふくいるゆ風聞軍の所蔵をば
捨せぬふぞや。とをるる侍ふ義経くいと大地ふひ上伏弧も樓ひ。をそらくあいて
おそるく。頃そ上てえ上ぶ。空中より充満こゆ。あまこの人新失果ぬとうん
ちゃぶかこふ唯一騎のこるへ祖父判官源義孫よこと打づけて「美福門院の
説言ゆそ故ゆ。御ぞるゆ世ゆ。皇子きるも世ゆ。ひ上みせられるひ
新院の御尋憤のゆるこゆ。おろるぐこれいこ。教まるゆ世義経と。ひてられて
ひ味方や。おのれ。一旦い君の御代ふ翻。手ぐせんこふ上あ上でも女勢ふ無勢
敵ぐがさく。軍敗て時ちぐ再義兵起さゆほぐ命を惜く降参ぐせ
かひもるく。ちゆもゆのまにてろされて北白河ふ一方の烟ときこえても無念の魂魄此地ふ
留て散ぐぐく。清盛己叔父をこ逼て我を義経ふ斬せて不孝の名を蒙る。経
家の恩賞うたらやゆ。謀反をおこせ朝敵と。源氏を亡ぐ我ぞ。ゆる侍ふ宮ゆる
さるまて。業花上ゆ平家の一門首を並てうれくぶ墓ゆ向ていまくかく。この
ひい汝と伊豆の牧殿。仏を合せてるあげせよ。とそゆうぐ後雙ふ言ふひを



みゆきすけのぶさとよと。御曹司の背をかき撫たまふ。義重てのたまふ。「我
家代々受伝る八領の鎧あり。月数日数源先産衣八龍涙沼茅金梅無膝
丸とのつけくう。我いまだ新院ふめされざりし甚さいとう或夜の夢ふ八幡の社に来
給せしが件の鎧過見さうと吹来り。八領とも四方ふ散て失さうと見さうしが果
して両度の世の礼ふ一領ぞわものとりあ〳〵へ給へ。源氏の家の宝と集めるべ恭の上なり恭そ臣
上ふ八此鎧をとも八領とも。もとのめくれた源の家の宝と集めるべ恭の上なり恭そ臣
と威の色目金物の模様つがさふいひきせ大息つひで居あり「所の内の通力
みて生きぬさ死のふぐをうつれ相むのこ語を
かいとうれ。さふ伝のふ光とこんやうもの。兼うー家の重器ようー荒海ふ沉むとも。
蛾夷が手ふ八領ふおろのそ蘇鹿上へのも者とも義経の弟のつ〳〵ん程ふ尋生て八幡の
宝前ふ一領も欠さだ供てりなやさんとのこ。ふ為義ふ快げふ打笑て「れのりく
其一言努力怠ふ。ふ。ふ。れ。今ふいのべきるのあけ。「きそ。よ。さうそあまく
山猫猿ふ。や明ぬと帝顔ぐ。幽冥の鬼とあくるる我をひろ八家を現ーかこ。さ。ふ。くと
三上る。神ふ。そ。つて。昔同今物習くと学あく。ふ。ふ。ふ

御曹司まつ
こゝのうちを
あらためあげるゝ

あさふのまつこゝろ
わんぎりしのめ
りのをゝびひとう
そのゞもさゝずず
いのちをとゝも

息がきれて走まつてゐる。盗人はとるが商売ところんでも主をうむが家業の精の人とい
畑金はあるりそろ山あるこの方れかゝ〜と。主をら主ゝ仲のゆんぐ〜こ
をでもそるとゝ。ゐて死ふとゝみ〜ぐ。ゐまくこと大分よりとゝのけるを為
むろ抜ゐる〜抜き中ゐうこ力を生。のゐ仲のゐかまを名大の組かる
ぐゝ解南蛮小袖剥取。つぐ古衣を捨てゆんのかこ〜ふ脇ゆり小袖直高ゐち
ゐゐ〜大はそ〜そ〜衣紋をゐつゐゐひゐ〜ゐの山度のゐ海り殺とすして仙合
ゐ〜。義経風流ゐゐゐん有性常東のゐつゐぐよゐ海賊ゐゐゐ女で一の美男。今
業平と愛乱され女自害ゐゐるとず我れ領の女の百合姫ゐ。ゐ〜〜ひ
ひそゐそゐ。ゐゐゐとゐ都ぞゐ。その〜せ用いよく〜ひひつゐ。ゐまゐ〜ひ足程柳造
岩。この三日ゐ〜金高右次ゐ〜〜都を出立と光ぶれゐ墓をゐぐひゐる。ゐて
ひ合せとゐり。今ゐ〜ゐ蜜ものこ〜ひよゐ。ゐぐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ丹波山城ゐ
ゐ〜ゐ〜ゐ〜

きてのの強へ[illegible]と聞きて[illegible]杨自杖振上く親方をぬるい打のめせいさ教ちと言曹
司中に取込打殺る是近ごろ曹司先子市をご同ようも[illegible]指上様と打行のへ[illegible]
るぐらもひるまのあずま等棒の雲と打行の或の沉或の飛越る陽ふきうる大男石ごど
[illegible]とるより極く投付く息杖奪ひ肩腰えうハぞ打懲ーおごきハ思れ迷ぬ[illegible]
打笑でぞおーるるあずま等ハ[illegible]ひげ者で[illegible]る子市も打男の苦痛様の度言ごと
へゆう[illegible]ちんぐらあく痛や[illegible]と千本れ奴流ーもんとこえの六指ふふるつく腰を
まびらーて[illegible]でいひうめ踊を躍つて[illegible]と一つ[illegible]
アーメくあげてやーく○敵も都の今[illegible]人三郎の吉次信言ハ韓山[illegible]と[illegible]
て[illegible]も疾[illegible]明[illegible]三月三日の晨朝ごくより起て用意もその八種[illegible]
の宝物二十錦正の馬ハ負せ人や鞍馬の使やあ[illegible]と[illegible]ども[illegible]信[illegible]敵[illegible]人を[illegible]
らんかも近きといかもあ[illegible]ぞ[illegible]心あれかまこごも。[illegible]を[illegible]るよーもかけ[illegible]本
[illegible]あげるのー邦の中[illegible]新二[illegible]の[illegible]ないで[illegible]紙ハかれて道を[illegible]ー日間ーこて
加[illegible]ごのさるつくさ[illegible]居さ[illegible]先物のつ[illegible]そ[illegible]曹司力量年業ハ[illegible]のさら[illegible]
ゆうもるくだ[illegible]様[illegible]乳[illegible]ーつが[illegible]をせる[illegible]とハ[illegible]ねど人[illegible]けごかくそ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ることれぞ上ある[illegible]方の[illegible]のびせざ[illegible]ごこ[illegible]異[illegible]ろく我を[illegible]そ[illegible]声を[illegible]
上て[illegible]ーせ[illegible]でハ悪[illegible]ハさるハ及びい。牧よく[illegible]都[illegible]りつめ「[illegible]よく[illegible]

わんぎり
りのちらせれふ
あひちらせ手くれ
だんをあげおろそ
こらーなまつ
ちまおひよ市

おそ世飛夜燈

おりとるぞと思うぞ藤を丁と打。賀る義ようはるて牧。出ず傷ふさーようて「幸
ふるぐふ和ヤさん。下司の新ふ丹ーーめ。と尤る源氏義朝君の邦ゆうふ八はしまさ
どや。大夫進朝長若ふ丹ーーもよく仕せめふ。ふ及ぶ毛。某ふそい
金商吉次。深栖三郎ぐせぐれの。陵助とーちーめ。君より源氏の若君るーべ。奥
秀衡ぐ平ふ。ーーー供う大ゐとかーぐきーーー

彼の松若ごろうだがうるも。妻〻く告てのくまくみ年〻今宵以強盗共敗を月夜て掛
入べし。いれこと〻をまつ入易れぞさくば火をぞ放つらむ。扨八禦ぐた使よろらず。吾おも
ふ所ある主に云付け。金竜の龍のもの。孫を用ゐぬど盗人がちさば開留く構こ亜我も
人もまつかとふ。新を隠してまづまり如う。心のまゝに乱入し。金銀をせもひ運び
出る。其後抜連おて出バ。敵八身重く動るもの十の丸人のぐ出。此謀計いでわゝん。
敵り思度の隙うゝバ。さぞろう戦て亜あゝ。用心の侍もあゝ。さえわゝうみ
ゝ。ゝ思ぞるゝ深けがゐ〻きる後兄を。一具入ゝもも。退去んもろゝぐゝ。
そゝ新人の巻ろり。おんこゝいゝぐ出ゝふぞと。張ゐゝ夜の奇怪
といひ。身を〻ぐちて怒〻〻。且感じゝ我ゐぐ〻〻ゝ秀衡ふゝこと
〻〻て鼻ゝゝして撓んと慌ひ〻ゝふる物も。山時を。ゐる年ゐ若ぐ〻亜後産嵐ふ
つゝ〻〻絶ふ亜さげゐち。五人のあてびの。新ゐ〻をえらんで。一陣ゐ〻〻〻〻ゝゝ。
菓ゐゐ者ゐんこゝせて。若次ゐ〻ふ〻ゐ〻ゝ人「ゆゐも如ゐ〻ゝ世ゐ〻ゝ。
やゝゐ所酒をひろゐゐゝ。今年初めて所ゐもの少人。
ま亜い程ふゐゐゝ。ゐゐ待ふゐゐ〻。ゐゐ〻ゐ〻ゐ〻